

広報 ただみ

1
2025 月号
No. 656
令和7年1月10日



今月の表紙

【3 保育所年長交流保育】

町内3保育所の年長組が朝日保育所に集まり、お餅つきをしました。

順番に杵でお餅をついて、出来上がったお餅は鏡餅にしました。

また、給食にお餅が出ると、美味しそうに頬張る姿が見られました。

《特集》

新年のご挨拶 2～3

千葉県柏市×只見町

縁をつないで30周年 4～5

雪まつり直前特集 6～7

《News&flash》 9

《町の話》 10～13



ご挨拶

目標に向かって 行動するまちづくり

只見町長 渡部 勇夫



明けましておめでとうございます。令和七年の新春を迎え、謹んでご挨拶を申し上げます。町民の皆様におかれましては、つつがなく輝かしい新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。昨年は、国際的にみれば、ロシアのウクライナ侵攻は開始から二年を優に経過し、戦闘に参加する近隣国も現れました。

また、オリンピックの他バレーボール、野球など様々なスポーツの国際大会が開催され、人々に感動をもたらしました。

国内では、元旦に発生した能登半島地震をはじめ、地震や豪雨等災害が各地で発生しました。

一方、円安の影響もあり、外国人観光客の増加など観光産業がコロナの五類移行後回復傾向にあります。

そうした地域が活気を取り戻そうとする中、人口減少会議では、二〇五〇年までの消滅可能性自治体を公表し、只見町を含む会津地方の多くがそれに該当するとされました。

只見町においては、十月には朝日診療所の常勤医が不在となり町民の皆様に変なご心配をおかけしましたが、福島県をはじめ関係各位のご支援をいただきながら、十一月から城大祐先生を所長として迎え、新たな体制をスタートさせることができました。

また、只見ユネスコエコパーク登録十周年を迎え、記念事業において、ネイチャーポジティブを宣言すると共に、地域の自然や文化を守りながら活かす

取組を加速させることを確認したところであります。

そして、私事になりますが、昨年十一月の町長選挙におきまして、町民の皆様方をはじめ多くの方々から温かいご支援を賜り当選の榮に浴し二期目の町政を担わせていただくこととなりました。

さて、コロナ対策をはじめ、一期四年の中で、様々な課題に対応して参りましたが、消滅可能性の懸念からどうすれば存続していきけるか、只見町の将来・生き残りのために、「目標に向かって行動するまちづくり」を念頭に、三つの目標をもって行動してまいります。

そしてそれらの目標達成に近づくためには二つの基本姿勢を意識する必要があります。

あると思っています。

目標の一つ目は、「安心、安全なまちづくり」です。

医療や介護体制の充実、防災体制の整備、防犯活動の推進、交通の利便性向上、日常生活支援、財産管理等の意思決定支援等です。

二つ目は、「町内産業の持続的な振興と担い手確保」です。

町内で日々懸命に営んでおられる、農業、商業、製造業、建設業、六次化産業等、全産業にわたって事業活動を持続していくことができる環境整備と支援、そしてそのための担い手確保対策は町が存続していくために大切なことだと思っています。

三つ目は、「人財の育成と確保」です。

これは二つ目の目標に繋がってきます。今の時代を担う人財の確保と人財育成・将来の地域リーダーの育成は、常に大切なことだと思っています。

次に基本姿勢です。

一つ目は、「国際的に共感を得られる態度」です。

「人と自然の共生」を掲げ、ユネスコエコパークに登録されている只見町は、「保護・保全」「地域振興」「学術調査研究・人財育成」の目標に向かって取り組むにあたり、この姿勢を意識する必要があります。

もはや町内や国内のみではなく、国際的に共感してもらええる態度こそ大切です。

二つ目は、「目標の具体化のための建設的な態度」です。

目標を定めても、具体化するのには正直難しいことがあります。しかし具体化して考えていかないと前に進みません。そのためには皆で関心を高め、建設的な態度をもってお互い接していかないと、力を合わせようという機運が生まれません。

年頭にあたり所信の一端を申し上げましたが、改めまして町民の皆様、並びに町議会のご理解をいただかなければ何ひとつ成し得ません。今後ともお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本年が町民の皆様にとりまして良き年でありますようご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げ、ご挨拶といたします。

新年の

新年を迎えて

只見町議会議長 佐藤 孝義



あけましておめでとうございます。年頭にあたり只見町議会を代表し、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

町民の皆さまにおかれましては、令和七年の新春を健やかにお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、日頃より議会活動に対する深いご理解とご支援をいただき、心より感謝申し上げます。

昨年は町議会議員の任期満了により、新たな議会体制がスタートした年でありました。私は四月会議において、議員各位の推挙をいただき、議長という大役を仰せつかりました。微力ではありますが、町議会の代表者としてその責任の重さを実感しながら、日々奔走するとともに、只見町発展のため引き続き努力してまいりたいと決意を新たにしております。

さて、昨年元旦に、石川県能登地方を中心とする大地震が発生し、その復興途上の九月には奥能登豪雨が発生するなど、能登地方に甚大な被害が発生しました。生活再建への歩みを進めている中で、自然の理不尽さに胸が痛み、一日も早い復興を心から願ってやみません。

日本は「災害大国」であり、自然災害がいつどこで起きても不思議ではありません。特に近年は気候変動に伴う自然災害の増加が懸念されておりますので、改めて防災・減災の充実強化に

努力してまいりたいと考えております。

また、昨年来、エネルギーや食料品価格などの物価高騰は、今もなお住民生活や経済活動に大きな影響をもたらしており、日本の経済状況はもとより地方経済も大変厳しい状況下にあります。さらに、東京一極集中、地方では少子・高齢化、人口減少という大きな社会構造の問題を抱えており、このような厳しい状況の中でも地域に即した特色あるまちづくりが求められております。

本町におきましては、令和八年度からのまちづくりの指針となる「第八次只見町振興計画」を策定する重要な年にあたります。

先人から受け継がれた自然や文化を活かし、それらを持続可能な形で利活用を通し、社会経済の発展につなげていくため、これからの十年、さらにはその先を見据え、町勢の発展につながるより良い計画となるよう、課題や目標を共有し議論を重ねてまいりたいと考えております。

また、国道二八九号・八十里越道路の開通も目前に迫っており、当町においては地域生活圏が大きく変わることが期待されております。観光客や交流人口の増加に伴う受け入れ対策はもとより、町内国道の狭隘区間の整備など、待ったなしの取り組みが必要と考えています。さらには、町経済の活性化、

子育て支援や教育環境の充実、医療・福祉をはじめ安心して暮らせる環境づくりなど、只見町に住んでよかったと実感できるまちづくりを目指し、町当局と活発な議論を重ね課題の克服に努めて参ります。

議会は町民に代わる最高意思決定機関という基本的な役割に加え、行政を監視、牽制する役割と使命があります。今後も町民の皆様との繋がりを大切にし、議会報告会や一般会議などを通じて皆様の声に耳を傾けるとともに、いただいたご意見をしっかりと受け止め、その声の一つでも多く実現できるよう、議員一同、精一杯努力してまいりますので、皆様のなお一層のご指導、ご支援をお願い申し上げます。

結びに、新しい年が町民の皆様にとりまして幸せで実り多い一年となりますよう、心よりご祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。





千葉県柏市の永楽台地域との交流をきっかけに、平成6年に柏市と締結した「ふるさと交流都市提携」は、令和6年11月19日に30周年を迎えました。

両市町は、お互いのイベントに参加するなどし、交流を深めてきました。その交流は、お互いの市役職員・役場職員のみではなく、柏まつりには只見町民が参加し、雪まつりなどのイベントには柏市民が訪れるなど、市民・町民にも交流が広がっています。また小学校では、学校給食食材交換事業が行われ、小学生が互いの市町の紹介を行うなどし、交流をしています。

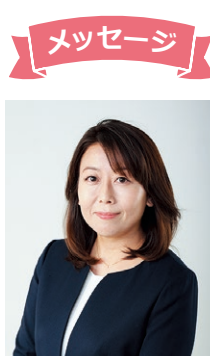
今号では、交流30周年を記念し、柏市の紹介をします。

千葉県柏市 × 只見町

縁をつないで30周年

只見町の皆様こんにちは！
柏市長の太田和美です。

両市町は今年度でふるさと交流都市提携30周年となります。昭和56年に柏市の永楽台地域の住民が只見町を訪れたことをきっかけに交流がスタートしました。以来、お互いのお祭りや文化祭への参加、スキー教室やキャンプ体験等を通じて親交を深めてきました。特に、普段、大自然に接する機会が少ない柏市の子どもたちにとって、只見町の雄大な自然の中で過ごす経験は



メッセージ

交流30周年

「ご縁」に感謝

太田 和美 柏市長

大変貴重なものです。

只見町と柏市は「ふるさと交流」で住民同士の心をつなぎ、お互いの特徴を尊重しあうとともに、柏市には無いものの、只見町には無いものをお互いに補いあい、協力しあえる「大切な友人」としての関係を築いてまいりました。

これまでの只見町の皆様との「ご縁」に感謝しますとともにこれまでも築いてきた交流を継承しさらに深めてまいりたいと考えております。

柏市との交流

- 昭和56年 永楽台近隣センター運営委員会
が只見町を視察訪問
- 昭和57年 永楽台文化祭に只見町が参加
- 昭和58年 柏まつりに只見町が参加
只見町文化祭に柏市が参加
スポーツ交流や只見キャンプ、
両市町のイベントへの参加で交
流を深める
- 平成6年 只見町と柏市が「ふるさと交流
都市提携」を締結
柏市手賀沼マラソンに只見町が
参加、柏レイソル選手を迎えサ
ッカースクールを開催するなど
の他、柏市立小学校がキャンプ
場で林間学校を行うなど、多岐
に渡る交流が行われる
- 平成24年 学校給食食材交換事業が行わ
れ、只見町のお米が柏市、柏市
の野菜などが只見町、それぞれの
小学校の給食で提供される
- 平成26年 ふるさと交流20周年記念野球
交流大会が開催される
- 令和6年 ふるさと交流30周年を迎える

行ってみよう! 柏市へ!

柏市の一大イベント「柏まつり」

柏市の一大イベントと言えば、例年7月下旬の土日で開催される「柏まつり」!

柏まつりは、柏駅周辺を会場に様々なイベントが行われ、その中の一つである柏おどりイベントには、只見町民も参加しています。柏まつり2024では「伝統柏おどり・輪おどり」として行われ、只見町は模範演舞を行いました。また、柏おどりをEDMやロックにアレンジした「シン・柏おどり」では、柏駅西口がさながらダンスホールのようになり、来場者らは老若男女世代を超えてリズムに乗っていました。

柏おどりイベントの他にも、柏市に縁のあるアーティストのイベントやお神輿パレードなどが行われるため、見どころ満載のイベントです。また、駅周辺の通りでも沢山の出店があり、二日間で楽しみきれないほどのボリュームのあるお祭りです。

ぜひ、足を運んでみてください。



- 開催日 例年7月下旬の土日
- 場所 柏駅周辺
- お問合せ 柏まつり実行委員会
(TEL 04-7162-3315)

関東三弁天「布施弁天」でパワーをもらって

「あけぼの山公園・農業公園」で四季折々も堪能しちゃおう



「関東三大弁天」の一つとしても知られている「布施弁天」は、1200年以上の歴史を持つ、柏のパワースポットです。布施弁天の本堂・楼門・鐘楼は、千葉県的重要文化財の指定を受けています。境内にある茶屋「花華」で一休みしながら、望む景色もとても素敵です。

布施弁天でパワーをもらった後は、歩いてすぐのあけぼの山公園・農業公園へ。

日本庭園や水生植物園、四季折々の美しい花や樹木が堪能できます。売店ではオリジナル焼き菓子も! 子どもたちも遊ぶふろさと広場もあるので、家族みんなで楽しめます。

- 布施弁天までのアクセス
柏市西口バスターミナルから東武バス布施弁天行で約25分
- お問合せ
布施弁天 (TEL 04-7131-7317)
あけぼの山農業公園 (TEL 04-7133-8877)



あけぼの山農業公園
ホームページ



布施弁天
ホームページ

第52回只見ふるさとの雪まつりは、2月8日(土)、9日(日)に開催することが決定し、雪まつりのPRなどを務める雪むすめへの委嘱状交付式が昨年12月19日に行われました。

交付式では、雪まつり実行委員会長の渡部町長から、雪むすめそれぞれに委嘱状が手渡された後、雪むすめが自己紹介と意気込みを述べました。また今年の大雪像は、映画「青春18×2 君へと続く道」とのコラボレーションとして、台湾にある「超峰寺」をイメージして作成します。



「雪まつりを盛り上げたい」と意気込む雪むすめ

私たちが雪まつりを盛り上げる



今年の雪むすめです!

めぐろのどか
目黒 温さん (写真左)

毎年、来場者として楽しませてもらっていた雪まつりに、盛り上げる側として参加できることをとても嬉しく思います。

地元である只見町を多くの人にPRできるよう頑張りますので、よろしくお願いいたします。

めぐろのぞみ
目黒 希さん (写真右)

只見町の一大イベントに「雪むすめ」という大役で携わることができ、とても嬉しく、光栄に思います。

皆さんの心に残るような雪まつりとなるよう、精一杯魅力を伝えて盛り上げたいと思います。よろしくお願いいたします。

楽しいイベントが目白押し! 雪まつりスケジュール

2月7日(金) 前夜祭

- 17:30 開場 ゆきんこ市オープン
17:40～ カラオケ大会
18:40～ プロジェクションマッピング



▲梁取太々神楽などの郷土芸能も見えます

2月9日(日)

- 10:10～ あっけらかんマジックショー
10:40～ 只見の空
11:00～ 郷土芸能発表
12:30～ アーティストライブ『大竹涼華』
13:30～ 夢グループ石田社長&保科有里
トーク歌謡ショー
14:30～ ゲームイベント
(雪玉ストラックアウト、他)
15:30～ あっけらかんマジックショー
16:30～ 天領只見仙嶽太鼓
18:00～ プロジェクションマッピング
18:30～ 祈願花火大会 &
麒麟ビール協賛花火

サブ会場

- 只見スキー場 2月8日～9日
●クラブ wild fox スノーモービル体験
●ふるさと只見案内人協会 かんじき体験
○ただみ・ブナと川のミュージアム 2月8日～9日
●館内展示解説



▲前夜祭ステージ上で自己紹介や雪まつりのPRを行う雪むすめ

2月8日(土)

- 10:00～ 開会式 ゆきんこ市オープン
11:00～ 梁取太々神楽
12:00～ 郷土芸能発表
13:00～ アーティストライブ『宏菜』
ふるさと交流都市30周年記念事業
14:30～ ゲームイベント
(雪上宝ひろい、他)
15:30～ あっけらかんマジックショー
16:30～ 爆笑モノマネショー『だしおさん』
17:30～ 厄払いの儀 おんべ
19:00～ プロジェクションマッピング
19:30～ 祈願花火大会



▲クライマックスに向けて会場を盛り上げる天領只見仙嶽太鼓

雪まつり情報が
見れます!

QRコードから
フォローできます!

問合せ

只見ふるさとの雪まつり実行委員会 (只見町役場
交流推進課内)

TEL : 0241-82-5240 / FAX : 0241-82-2117
Mail : yukimatsuri@town.tadami.lg.jp
HP : <https://tadamisnowfes.com/>



#雪まつりホームページ



#雪まつりInstagram



只見町ブナセンターは、アーティストの岩田とも子さん（上写真、左端）を講師に、榎戸・観察の森（ブナ林）とただみ・ブナと川のミュージアムでアートワークショップを開催しました。テーマは「ブナの森の大きな地図と小さな地図」で、ブナの森を歩きながら見つけた葉っぱや枝、木の実などを観察して、それらを使った地図を作ったり、葉っぱなどの模様をよく観察して隠されている地図を探し、描く活動を行いました。

只見子ども芸術計画 ブナの森の大きな地図と小さな地図



第1回（11月10日）のワークショップでは、参加者が、ブナ林で自然物の採集する中で、見る、触る、食べる、匂いを嗅ぐ、聞く、の五感を使って自然を体験し、採集してきた葉っぱ、枝、木の实などを手で折ったり、ちぎったりして大きな地図を創作しました。

第2回（11月17日）のワークショップでは、参加者が、ブナ林で小さなフレームを使って森の中の葉っぱや枝、石などの模様などをよく観察し、その中に隠された小さな地図（葉脈が地図のように見えたりするもの）を探していました。気に入った地図が見えた葉っぱなどは、ミュージアムに持ち帰り、それらを虫眼鏡を使ったりして観察しながら、画用紙に色鉛筆で小さな地図を描きました。

これらワークショップで完成した作品は今後町内で展示する予定です。

より良い運営のために 只見町ブナセンター 運営委員会現地視察

只見町ブナセンター運営委員会は、只見町ブナセンターのより良い運営に向け、11月20日に現地視察を行いました。

余名沢のブナ林の只見こども芸術計画の作品展示、黒谷地区に整備した豪雪林業体験・観察の森・『自然首都・只見』伝承産品」事業の取組状況、ふるさと館田子倉の視察を行い、意見交換が行われました。

委員からは、「ふるさと館田子倉の伝承産品展示・販売については、ユネスコエコパークを推進するため、よりPRに務めるべき」などの意見が出されました。



▲ふるさと館田子倉を視察する委員

地域の防災のために 区長連絡協議会 町内研修会

只見町区長連絡協議会は、町内集会施設に設置されている無線機の通信試験や災害備蓄品の確認を行いました。

無線機の通信試験は、災害時の連絡用無線機の受信感度や使用方法を確認するもので、概ね感度良好ではあったものの、一部、屋内において感度が悪い等の課題が確認されました。

備蓄品は、今年度に更新が行われ、今回の確認作業では、備蓄品内容や保存期間の確認などが行われました。

現地での試験等終了後は、朝日公民館で、情報交換が行われ、課題の確認や定期的な実施に向けた意見交換や情報共有が行われました。



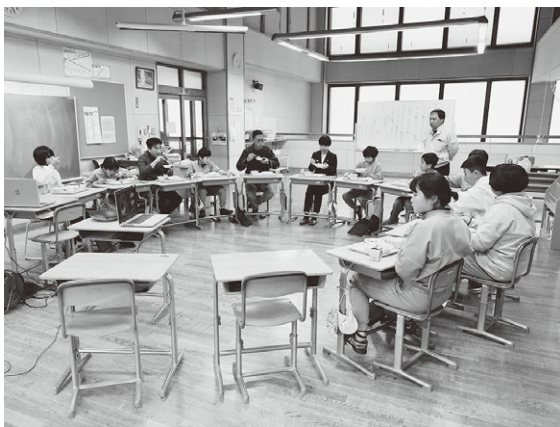
▲集会所内で本部（公民館）との無線感度の確認を行う様子

柏市と交流を深める 学校給食食材交換事業

ふるさと交流都市の千葉県柏市と只見町の給食食材交換事業が行われ、給食食材として柏市から只見町にブルーベリーとかぶ、只見町から柏市にお米（提供：株）新国農園）がそれぞれ提供されました。

給食時間の前段、柏市立第八小学校と只見小学校をオンライン会議システムで繋ぎ、児童が両市町の紹介や特産物の説明をおこないました。

また、給食時間中も給食風景をオンラインで繋ぎ、食材の味の感想などを共有しながら、給食を楽しみました。



▲柏市の食材が使用された給食を楽しむ児童

安心・安全な地域づくりに取り組む 渡部勇夫町長 2期目初登庁

任期満了に伴う只見町長選挙で、無投票で再選した渡部勇夫町長が12月16日に2期目の初登庁をしました。役場町下庁舎では、職員が町長の初登庁を拍手で迎え、花束を贈りました。

只見公民館で行われた就任式で、渡部町長は「安心・安全な地域づくり、産業振興、人材育成に取り組んでいきたい。皆さんのお力添えをいただきたい」と職員に向けて訓示を述べました。

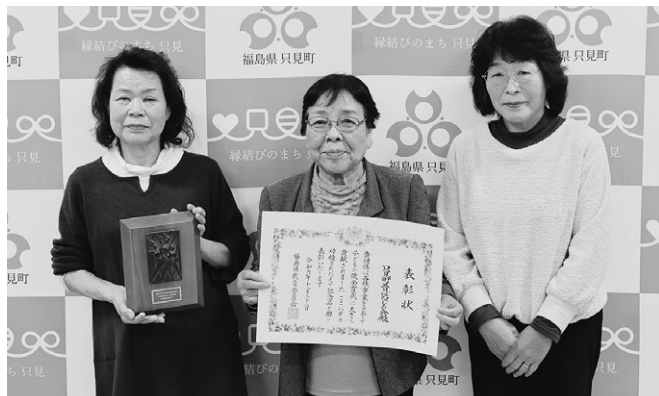
2期目の任期は、同日から4年間です。



▲職員からの花束を受け取る渡部町長

地域の文化継承等に寄与

只見町昔ばなしの会 福島県文化表彰受賞



▲受賞報告に役場を訪れた只見町昔ばなしの会の皆さん

只見町昔ばなしの会が、令和6年度福島県教育・文化関係表彰を受賞しました。

只見町昔ばなしの会は、昔ばなしを後世に伝えたいという思いを持った方が集まり、様々なイベント・行事で、方言を大切にしたり地域に伝わる昔ばなしを語るなどの活動を行っています。

今回の受賞は、只見町昔ばなしの会が幅広い年代における郷土理解と郷土愛の醸成に貢献していることや、昔ばなし・わらべ歌などを組織的かつ持続可能な形で保存継承していることなどが、評価され受賞となりました。

美味しい新そばを堪能 朝日そばまつり

朝日地区地域づくり委員会が主催する「朝日そばまつり」が12月8日に開かれ、約50人が参加しました。

冒頭で目黒俊行会長は「親睦を深める場としても楽しんでほしい」と挨拶し、熊倉そば愛好会の目黒義行さんは「美味しいと食べていただけると作り甲斐がある。美味しいおそばを食べて元気に過ごして欲しい」と話しました。

また、今年は「はぎの会」による舞いが披露され、見て、食べて楽しんだそばまつりとなりました。



▲そばまつりを楽しんだ皆さん

車両、資機材を更新

消防署只見出張所の救急車が新しくなりました



▲地域住民のため日々ご尽力いただいている消防職員とお披露目された救急車

南会津地方広域市町村圏組合消防本部において、災害対応特殊救急自動車(救急車)引渡式が12月4日に行われ、只見出張所に配置されました。

また、配置された救急車のお披露目が町役場で関係者らに行われ、只見出張所消防職員が救急車の仕様や救急資機材の説明をしました。

配置された救急車は、最新の資機材が積載されており、傷病者の負担軽減や蘇生機会を高める他、対応する職員の負担軽減などが期待されています。

子どもたちに笑顔が届けられました

町内各地でクリスマスイベントが行われました

12月のクリスマスシーズンは、町内保育所や各地区でクリスマスを楽しむイベントが開催されました。イベントでは、クリスマスの由来を学んだり、サンタクロースが子どもたちにプレゼントを配ったりするなどし、参加した子どもたちは素敵なクリスマスを過ごしました。



▲朝日クリスマス会



▲かるがもクラブクリスマス会



▲保育所クリスマス会（左から只見保育所、朝日保育所、明和保育所）



安心は最大のサービス

只見スキー場オープン式



▲テープカットを行う来賓の方や関係者

只見スキー場オープン式が12月20日に只見スキー場ロッジで行われ、来賓の方や関係者らがスキー場運営の安全祈願とオープンを祝いました。

スキー場を運営する株式会社只見町観光公社の新國社長は「安全は最大のサービスをモットーに楽しいスキー場と美味しい食事を提供したい」とあいさつされました。

その後、渡部町長からお祝いの言葉が述べられ、佐藤町議会議長の発声で安全祈願の乾杯が行われました。最後は、オープンをお祝いしてテープカットが行われました。

また、今シーズンから新しい圧雪車が稼働しています。

伝統文化を未来に繋ぐ

ブナセンター講座「マタギの里でしな布を織る」開催



▲森と共生する暮らしについて話す大滝さん

ブナセンター講座「マタギの里でしな布を織る」が11月30日に開催され、20人が参加しました。

講師を務めた現代美術家・しな布作家である大滝ジュンコさんは、現在新潟県村上市山熊田集落に在住し、日本最古の織物であるシナノキの樹皮を使ったしな布を作成しています。

講座では、山熊田集落に住んだきっかけ、集落の山を利用する伝統的な文化、しな布が作られる工程、伝統文化の継承における問題、伝統継承と移住を掛けあわせた取り組みなどを紹介しました。

大滝氏は、「失われたら取り戻すことができない貴重な文化や技術を未来に繋げるためには今が正念場だ」と熱を込めて話されました。

ブナ林を生かす

ブナセンター企画展「雪国のブナを極めるⅡ」開催中

ただみ・ブナと川のミュージアムでは、ブナセンター企画展「ブナ林の木に生かされる 雪国のブナを極めるⅡ」が開催中です。

本企画展では、雪国の暮らしと文化の礎となってきたブナ林の木材や燃料としての使われ方に焦点をあて、その歴史を振り返るとともに、現代の生活にブナ林を生かす取り組みについて、展示パネルや、実際に只見で生産された炭などを展示し解説します。

展示期間は6月30日(月)までです。展示を通して、ブナ林がこれだけ実際の生活に身近であったこと、これからの活用の可能性を知ることができる企画展です。ぜひ一度ご覧ください。



「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」

合同会社ねっか 優良事例に選定されました



▲認定証を手にする脇坂さん(中央)と三瓶さん(右)

合同会社ねっかが、地域活性化などの取り組みを表彰する「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」で、ビジネス・イノベーション部門に選ばれました。合同会社ねっかが酒米生産の農業と酒造業で雇用を生み出していることなどが、今回の選定につながりました。

また、審査員特別賞「楽しさ・想いが次世代につながる地域貢献賞」を受けました。

当表彰は農林水産省の主催で行われています。今回で11回目の開催で、全国から30の事例が優良事例として選ばれ、福島県内からはねっかが選ばれました。

第28回ボランティア・スピリット・アワード

角田杏さん 全国賞を受賞



▲トロフィーを手にする角田杏さん（右から2人目）

地域のため、社会のため、誰かのために自ら行動を起こしている中学生・高校生を称える「ボランティア・スピリット・アワード」の全国表彰式が12月15日に開催され、角田杏さん（只見中2年）が昨年の最高賞受賞に続き、全国賞を受賞しました。

同表彰では、全国7ブロックでブロック賞に選ばれた30人（または団体）から、中学生部門・高校生部門から最高賞が各1組、全国賞に8組が選ばれました。

角田さんは「只見線を世界一応援される鉄道にしたい。只見線の魅力を広く知ってもらえるよう地に足をつけた活動をつづけたい」と今後の意気込みを話しました。

持続可能な社会をつくろう

只見中 只見町に政策提言

只見中学校生徒による政策提言の発表が12月20日に町役場議場で行われ、只見中3年生24人が只見町に政策を提言しました。

発表会では、生徒が6班に分かれて、総合的な学習の時間に学んだことから地域の課題を解決するために考えた内容を、町長や課長職、町議会議員に向けて発表しました。

発表内容には、農業をもっとアピールしていくことや夏の只見スキー場の活用、自然保護のためにアニマルパスウェイ（道路や鉄道などで分断された森を繋ぎ、野生動物の通り道とするもの）の設置などの提案だけでなく、自分たち生徒ができることについても発表しました。



▲提言発表を行った只見中の生徒

切ない初恋の記憶とともに旅をする

映画「青春18×2」町民上映会開催



▲（左から）吉田瑠美さん、藤井監督、前田プロデューサー

只見町もロケ地になった映画「青春18×2 君へと続く道」の町民上映会が12月22日に開催されました。

上映会と併せて、同作品の監督の藤井道人さん、プロデューサーの前田浩子さん、劇中のアミが描く絵を担当した画家で絵本作家の吉田瑠美さんの3人によるトークイベントが行われました。

イベントの中で3人は、撮影期間中に触れた只見町民の温かさや上映会に参加した方に感謝を伝えました。



只見短歌会

令和六年十二月詠草

戦争のニュースは悲惨外国の海に眠れる父若かりし

目黒 富子

一晩で積雪なりし里景色降りつぐ雪に思ひをはせし

関谷登美子

プレゼント持ってきてよねサンタさん寝る前パパにつぶやく我が子

立花 奏音

日の長くなりしは冬至のわづか前外の白みて明るく見ゆる

新国由紀子

山白く冬の訪れ迫りくるも衣替へなど間に合わずして

渡部ヨリ子

只見俳句会

十二月定例会

いにしえの奈良の都や冬木立
つらつらと飛鳥の里や冬紅葉

信

道折れて石垣続く柿紅葉
鍵忘れ鍵穴にらみ冬の暮

都

炬燵^{こたつ}布団替えた模様で長話
荒畑に残るピーマン今朝の雪

味代子

冬ぬくし術後の夫と向い居て
クリスマスソングや夫は快方へ

一恵

初雪に幼児が「うきうき」親子づれ
雪深深友と交わす一杯のコーヒー

睦子

雪簾越しの山河や年新た
茅葺きの番所に千の氷柱かな

礼

友の妻を悼む
感謝して一人で逝くや冬日和
無念さをサンタに託し息を切る

樹希

今月のお知らせ

電話番号

総務企画課	財政係	☎82-5210
総務係	企画係	
町民生活課		
町民税務係		☎82-5110
生活安全係		☎82-5100
保健福祉課		
保健係		☎84-7005
福祉係		
成年後見制度利用促進室		☎84-7010
農林建設課		
農林係		☎82-5230
建設係		☎82-5270
薪エネルギー推進室		☎82-5230
交流推進課		
観光係	商工労働係	☎82-5240
移住交流係		
ユネスコエコパーク推進係		
(ただみ・ブナと川のミュージアム内)		☎82-5963
会計室		☎82-5120
議会事務局		☎82-5300
農業委員会		☎82-5230
教育委員会		☎82-5320
学校給食センター		☎84-7180
只見保育所		☎82-2219
朝日保育所		☎84-2038
朝日保育所		☎86-2249
朝日診療所		☎84-2221
(歯科)		☎84-2612
こぶし苑		☎84-2101
只見公民館		☎82-2141
朝日公民館		☎84-2111
明和公民館		☎86-2111

お知らせ

保健師、助産師、看護師などを目指す奨学生の募集

一 対象となる職種

保健師、助産師、看護師、放射線技師、理学療法士、作業療法士

二 奨学資金貸与の条件

○法に基づき指定された対象となる職種の養成施設に在学または在所している(予定含む)こと

○養成施設に合格時点を含め、入学以前に6か月以上引き続き只見町に住所又は本籍を有すること

○申請する者の保護者が只見町に住所を有すること

○国又は他の団体から同種類の奨学資金の貸与を受けていないこと

三 貸与額

月額10万円以内

四 奨学資金の返還及び免除

奨学資金貸与条例により原則として貸与期間満了の1年後から10年以内に返還することになります。ただし、資格取得しその職種で

只見町の任期の定めのない職員として就職した時は、返還期間中の従事期間に応じた額が免除されます。(町職員として就職するまでに納期の到来した返還額と返還済額は免除対象となりません)

六 申込方法

奨学資金貸与申請書に住民票抄本(申請者と保護者)、履歴書、健康診断書、在学中の学校からの推薦書、養成施設の在学証明書(進学予定は合格通知書写し)を添えて保健福祉課保健係に提出してください。

申請書類等は、只見高校及び南会津高校に送付しています。

また、お問い合わせいただいた方に直接送付しますので、問合せ先にご連絡ください。

七 募集期間

令和7年2月7日(金)まで

八 問合せ先

保健福祉課保健係
☎84-7005

田島税務署からのお知らせ

【確定申告書作成会場の開設】

田島税務署では次のとおり確定申告書作成会場を開設します。

○開設場所

南会津町田島字寺前2939-1
2 田島税務署1階会議室

○開設期間

2月17日(月)～3月17日(月)
※土、日、祝日を除く

○開設時間

午前9時～午後5時

○その他

税務署では、原則、ご自身のスマホとマイナンバーカードを使用し、ご自身で申告書等を作成していただきます。

スマホとマイナンバーカードをお持ちの方は持参していただくほか、マイナンバーカードの利用者証明用電子証明書(数字4ケタ)・署名用電子証明書(英数字6～16文字)のパスワードを事前に確認していただくようお願いいたします。

申告書作成会場の混雑緩和のため、会場への入場には「入場整理券」が必要です。

入場整理券は、会場で当日配付しますが、LINE(ライン)を通じてオンラインによる事前発行が便利です。

なお、入場整理券の配付状況に応じて、後日の来場をお願いする場合もありますので、予めご了承ください。

【国税庁ホームページで作成できます】

お手持ちのパソコン、スマホ、タブレットを使って、国税庁ホームページの「確定申告書作成コーナー」で、申告書を作成することができま。スマホ、タブレット端末からは、より操作がしやすい「スマホ専用画面」をご利用いただけます。

【税金の納付は】

振替納税が便利です。

令和6年分申告所得税及び復興特別所得税並びに贈与税は3月17日(月)、消費税及び地方消費税(個人事業者)は3月31日(月)が納付期限です。

納税には、便利な振替納税をご利用ください。新規に希望される方は上記納付期限までに田島税務署又はご利用の金融機関に「預貯

税 今月の納期

1月27日までに納めましょう

- 町県民税(4期)
- 固定資産税(4期)
- 農集排使用料(1月分)
- 後期高齢者保険料(6期)

金口座振替依頼書」を提出してください。

なお、個人納税者の振替納税及びダイレクト納付については、オンラインにより依頼書の提出が可能ですので、是非ご利用ください。

振替納税における振替日は、申告所得税及び復興特別所得税が4月23日(水)、消費税及び地方消費税(個人事業者)が4月30日(水)です。

※贈与税については振替納税はございません。

【問合せ先】

田島税務署
☎0241-6211230

※確定申告に関する相談は「電話相談センター」でお答えしますので、音声案内に従い「0」番を、税務署にご用の方は「2」番を選択してください。

広報ただみ12月号訂正

広報ただみ12月号7ページ一段目記事タイトルに誤りがありました。正しくは次のとおりです。

〔正〕「第51回只見町文化祭」開催

広報ただみスナッパ

紙面の都合で掲載できなかったお写真を載せています。関連記事と併せてごらんください。



▲青春18×2の上映会に参加された皆さん（午前の部）



▲青春18×2の上映会に参加された皆さん（午後の部）



▲お餅を堪能した年長組の子どもたち



▲最新の資機材が装備された救急車内



▲朝日クリスマス会で行われたミニゲームを楽しんだり、サンタさんからのプレゼントに喜ぶ子どもたち



町長スケジュール〈12月分〉



- 2日 教育委員辞令交付式、文化祭実行委員会、ふくしま駅伝只見町チーム結果報告会
- 3日 株式会社季の郷湯ら里取締役会、アルソック代表取締役他来庁、南会津地方振興局長と懇談
- 4日 南会津地方町村会役員会、南会津地方広域市町村圏組合管理者会（南会津町）雪まつり実行委員会、南会津地方広域市町村圏組合消防署只見出張所救急車お披露目
- 5日 政策調整会議、只見町防災会議及び国民保護協議会、東北電力ネットワーク(株)田島電力センター所長来庁
- 9日 議案検討庁議、只見町振興計画策定推進本部会議

- 10日 年末年始における事件事故防止活動に伴う出動式（南会津町）
- 11日 東北電力(株)会津若松支社来庁
- 12日 医療・介護・福祉在り方検討会結果報告来庁、一般質問検討庁議
- 13日 電源開発株式会社東日本支店長他来庁、滝調整池堆砂対策連絡協議会
- 16日 町長二期目初登庁、就任式
- 17日 只見町議会12月会議（～20日）
- 19日 雪むすめ委嘱状交付式
- 20日 只見スキー場オープン式、只見中学生による政策提言の発表、臨時庁議

町民の消息

(11月26日～12月25日届出分)敬称略

■お誕生おめでとうございます

めぐろ はると
目黒 日翔 (男/巧・桃代) 長 浜

■ご結婚おめでとうございます

福 井 黒須 一希 ♡ 鈴木 麻友 小 林

■おくやみ申し上げます

馬場 嘉彦 89歳	小林	渡部 完爾 99歳	只見
増田きよ子 70歳	小川	五十嵐京子 91歳	蒲生
齋藤 研三 70歳	亀岡	馬場 隆美 86歳	坂田
三瓶 節子 91歳	蒲生	吉津 利忠 93歳	黒谷
菅家喜佐男 81歳	黒谷	川合 公祥 83歳	只見
渡部テルミ 86歳	福井	齋藤きぬ子 70歳	亀岡
酒井 市子 88歳	只見	渡部 牧子 67歳	小川

※「町民の消息」欄に掲載を希望されない方は、届出のときにその旨をお伝えください。

人のうごき

令和6年12月1日現在

人 □ 3,554 (+1)
男 1,761 (±0)
女 1,793 (+1)
世帯数 1,525 (+3)
高齢化率 48.4%

※高齢化率とは、65歳以上の人が人口に占める割合です。

転入 15 転出 6 出生 2 死亡 10

▽あけましておめでとうございます。本年も「広報ただみ」をよろしくお願いいたします。
▽表紙の交流保育の餅つきでは、私もお餅つきをさせて頂いていただきました。子どもたちの「よいしよ」の掛け声でお餅つきをするのはとても楽しかったです。年長組の皆さんありがとうございました。
▽今シーズンは既に只見町らしい辺り一面の雪景色となりました。除雪等の際には十分にお気をつけください。
(小林)

あとがき

町民憲章

- 1、ゆたかな緑ときれいな水をまもり美しい町をつくりましょう
- 1、互いに助け合い親切をつくし楽しい町をつくりましょう
- 1、産業をおこしみんなで働ける豊かな町をつくりましょう
- 1、教養を深め心と体をきたえ文化の町をつくりましょう
- 1、きまりを守り良い風習を育て住みよい町をつくりましょう

只見公民館 図書紹介

只見公民館図書室
☎82-2141

おすすめ新着図書

☆婚活マエストロ



【著】宮島 未奈 (文藝春秋)

40歳のこたつ記事ライター・猪名川健人は、婚活事業を営む「ドリーム・ハピネス・プランニング」の紹介記事を引き受ける。安っぽいホームページ、雑居ビルの小さな事務所…手作り感あふれる地味なパーティーに現れたのは、生真面目にマイクを握るスーツ姿の美女・鏡原奈緒子。彼女は脅威のカップル成立率を誇る伝説の司会者“婚活マエストロ”だという。その見事な進行で、参加者は完全に鏡原の掌の上。シニア向け婚活パーティーから、琵琶湖に向かう婚活バスツアーまで、いつだってマエストロは絶好調だ。気付けば事業を手伝うことになった猪名川だが、鏡原への謎は深まるばかりで…。

本屋大賞受賞『成瀬は天下を取りにいく』を超える、爆走型ヒロインが誕生！

☆そういうゲーム

【著】ヨシタケ シンスケ (KADOKAWA)



『メメンとモリ』に続く、ヨシタケシンスケのもうひとつの世界。

毎日いろんなゲームをする。

何があってもゲームをする。

なぜならそういうゲームだから。

ヨシタケシンスケが描く、ゲームとしての日常。めざせ、高得点。

○只見公民館ではリクエストを随時受付しています。
読んでみたい本があれば、ぜひリクエストしてください。



(写真・文 太田祥作)

アナグマ

(学名: *Meles anakuma*)

【ネコ目イタチ科】



▲ アナグマの親子（奥が親、手前が子）



▲ 砂防堰堤上に現れたアナグマ（荒島地区にて撮影）

アナグマはイタチの仲間の中^{ちゅうがた ほにゅうい}型哺乳類です。よくタヌキと間違われますが、タヌキはイヌの仲間で、よく見ればアナグマは鼻先が長く、体形や色模様も異なります。アナグマは日本固有種で、本州・四国・九州の山地に分布します。只見町にも生息しており、基本的に夜行性ではあるものの、日中でもその姿を見かけることがあります。

アナグマは優れた嗅^{きゅうかく}覚をもち、地中のミミズなどの土^ど壌動物を好んで食べるほか、昆虫やカタツムリ、カエル、果実などを食べる雑^{ざっしよくせい}食性です。さらに、前足の爪が長く伸びており、これで土の中に長いトンネルを掘って巣^ほ穴^{す あな}を造ります。ただし視力が低いため、人がいることに気付かずにこちらへ歩み寄ってくることも少なからずあり、ちょっと間抜けな動物とも言えます。

アナグマは冬ごもりをし、11月から春までは巣穴の中で過ごします。雌親はこの間^{かん}に出産し、翌年の初夏^{ぼし}には母子で連れ立って行動する様子が見られるようになります。冬^{ふゆ}真っ只^{ただ}中の今頃、アナグマは巣穴の中で過ごしていることでしょう。

ちなみに、只見の地方名では「マミ」と呼ばれ、その肉は鍋などに入れて食すと美味であったと言われています。

只見町ブナセンターからのお知らせ

下記イベントを開催しております。詳細は只見町ブナセンター（電話 0241-72-8355）までお問い合わせください。

企画展「ブナ林の木に生かされる 雪国のブナを極めるⅡ」

会期：2024年11月9日(土)～2025年6月30日(月)

場所：ただみ・ブナと川のミュージアム 2階ギャラリー